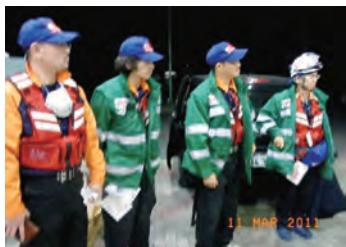


東北地方太平洋沖地震被災地に向けて

D M A T が 出 動 し ま し た



↑出動前の出発式のようす
(右から)八神俊明 医師
宮武 諭 医師
鈴木 新 看護師
藤井英雄 看護師



↑自衛隊との調整のようす



↑霞ヶ浦駐屯地テント内での救援活動のようす

平成23年3月11日、東北地方太

平洋沖地震を受けて、被災地での
救援活動を行うため、当院のDM

A T※が出動しました。

※DMATとは、災害派遣医療チームのことです。医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。

大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場において、急性期に活動できる機動性を持ったチームを指します。DMATは、災害医療において専門的な訓練を受けています。

当院のDMATは、地震発生当日の夜に出発し、陸路で被災地仙台へと向かいました。陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地での活動要請を受け、12日早

朝から救援活動を開始しました。主に、ヘリポートにおいて症状の重さや緊急性によって、治療の優先順位や病院搬送の必要性を割り振る役割を担いました。

そして13日の任務終了まで、ほぼ休みなしで活動し、たくさんの傷

病者の救助にあたりました。

救援活動中、ある親子との出会いがありました。「今は軽症者の診療はできない」と医療機関で診療を断られ、駐屯地の救護所をたずねてきたのです。話を聞くと、子どもが熱を出し下痢をしているとのことでした。私の活動していた駐屯地でも、本来軽症者の診療は行っていましたが、私は診療を行い、

このたびの震災等により被害を受けられた皆さん、またそのご家族に、心

よりお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復興をお祈り申しあげます。



↑八神医師が診療を行っている様子





健診センターがリニューアルしました



↑改装後の受付カウンターです。

新たに会員カードができました

健診センターをご利用の方へ、受付時に窓口でお渡しいたします。



↑健診センターでは、4月1日より電子カルテシステムを導入いたしました。

最新の検査機器・ 新しい健診システムの導入

病院の電子カルテ化に合わせて
最新の検査機器や新しい健診シス
テムが導入されました。新しいシ
ステムは、特にセキュリティの強

新しい健診センターは広々とした受付カウンターの設置をはじめ、採血や血圧測定などのスペースを拡充し、以前にも増して快適な環境で皆さまをお迎えすることができるようになりました。

改装後の健診センター

当院健診センターにおける改
装工事の間、ご利用の皆さまにはご迷惑をお掛けいたしま
した。4月より、装いも新た
に運用を開始いたしました。

化と業務処理能力の向上を目指
したもので、受診者の皆さまにはこ
れまで以上の安心と信頼が得られ
るものと思われます。

定期的な健康診断

定期的な健康診断は有意義なも
のです。健康に自信がある方であつ
ても、年に一度の健康診断（人間ドック）はいかがでしょうか。皆さま
のご利用をお待ちしております。



健やかなくらしーあなたの健康を見つめます。

済生会宇都宮病院健診センター



健康診断(人間ドック)に関する
お問い合わせはこちらへどうぞ

電 話 **028-626-5565** (直通)

受付時間 午前8時30分～午後5時30分

※料金・検査内容など、お気軽にお問い合わせ
ください。

問合わせ

ご予約



ご予約はこちらの
専用電話番号へどうぞ

電 話 **028-643-4441** (予約専用)

受付時間 午後1時～午後5時

※受付時間にご注意ください。



平成23年5月30日に

済生会は創立100周年を迎えます

済生会が設立されるまで

明治44年2月11日、紀元節^{※1}に、明治天皇から総理大臣・桂太郎に勅語を賜りました。これが「済生勅語」というもので済生会設立のきっかけとなりました。

済生勅語の中で天皇陛下は、「施薬救療以

テ済生ノ道ヲ弘メムトス茲ニ内帑ノ金ヲ出タシ其ノ資ニ充テシム卿克ク朕力意ヲ體シ宜キニ隨ヒ之ヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ頼ル所アラシメムコトヲ期セヨ」という言葉を述べられました。この「卿」というのは桂総理大臣ですが、「大臣は天皇の意をくみ、民衆を救うじよりにして永遠に庶民を救うもの



済生会の紋章「なでしこ」の由来

済生会の紋章「なでしこ」は、初代総裁伏見宮貞愛親王殿下が、済生会創立当時、済生会の事業についてのお心を、次のような「撫子の歌」としてお読みになりました。それにもちなんで、いつの世にもその趣向を忘れないようにして、撫子の花に露をあしらつたものが、大正元年（1912年）から済生会の紋章となっています。

露にふす 末野の小草 いかにぞと
あさタかかる わがこころかな

【意訳】生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだ
けでなく、いつも気にかかることがある



↑本会紋章



↑なでしこの花

済生会の設立主意書（中心となる考え方）には、「救済事業の中でも大切なのは、国が永らく栄えるには、施療施設（病院）をつくり、病気を予防し、医療を早く受けさせ、夭寿を全うさせる」とあり、病気から早く回復して労務に従事できる身体にする、これによって一国の活力をつくることが出来るのだ」と記しています。

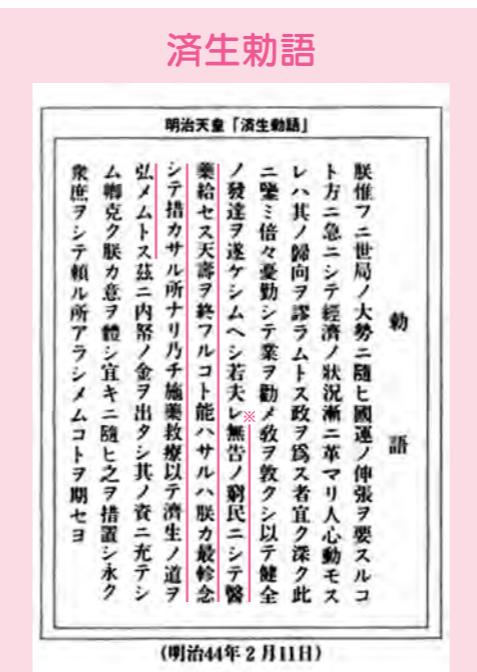
※1 紀元節（きげんせつ）…「日本書紀」が伝える神武天皇の即位^{※2}として定めた祭日。旧正月。
※2 日露戦争…（明治37年2月8日～明治38年9月15日）大日本帝国とロシア帝国との間で発生した戦争。ポーツマス条約により講和した。

「恩賜財団」が小さく組み文字になつてゐるわけ

済生会は「社会福祉法人 恩賜済生会」というのが正式名称です。組み文字を使用したのは、明治天皇に計画と法人名をご覧に入れられる際、「恩賜財団」を他の文字と同じ大きさで一行に書いた名前で申請しました。ところが陛下は「この事業は自分のみでやるものではない。国民とともに『済生事業』を行うのだから、皇室だけが先行しているような印象を与える「恩賜財団」は適当でない」とおっしゃられ、お許しが出ません



「済生」とは「生命を救うこと」という意味があります。



（明治44年2月11日）

＊『無告ノ窮民ニシテ醫藥給セス天壽^{テンシユ}アタ^シヲ終フルコト能ハサルハ朕力最軫念^{シヤクキウリヨ}シテ措カサル所ナリ乃チ施藥救療以テ済生ノ道ヲ弘メムトス茲ニ内帑ノ金ヲ出タシ其ノ資ニ充テシム卿克ク朕力意ヲ體シ宜キニ隨ヒ之ヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ頼ル所アラシメムコトヲ期セヨ』

「もし国民の中に身寄りのない、生活困窮者で、医療を求めることが難しいものがいれば、薬を与え医療を施して生命を救う、済生の道をひろめたいと思う」ということを天皇陛下がおっしゃいました。

明治44年は日露戦争^{※2}が終戦した後でした。そこで「恩賜財団」を二行に分けた組み文字とすることをやつとお許しを頂いたといふいきさつがあります。

済生会は現在、寛仁親王殿下を総裁とし、北海道から九州まで全国41都道府県に支所を置き、病院・診療所・各種医療福祉施設、合わせて370施設余りを展開しています。

済生の精神を受け継ぎ、全国の支部で更生保護施設への支援・巡回診療・健康相談、巡回診療船「済生丸」の運行などを実行しています。

創立から100年が経ちますが、これからも永く、地域の人々の命を支える存在であり続けられるよう、精進していきます。

明治44年5月30日のことでした。

明治44年は日露戦争^{※2}が終戦した後でした。戦争で夫や息子を亡くし生活に困っている多くの市民と、戦争でお金を儲けた者との貧富の差が激しく、国は退廃していました。そのような中で、済生会は民衆を救う事業として設立されました。